児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成30年　3月　30日　　事業所名　　多機能型事業所たちばな

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50.0%	37.5%	未就学児と学童の部屋を分けることがある	土曜日や長期休暇は、利用児とスタッフでいっぱいになるので改善を要する
	2	職員の配置数は適切である	50.0%			非常勤と常勤をうまく配置し働きやすい環境づくりを目指す
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	37.5%	25.0%	日々工夫をしている	安心・安全に過ごせるような改善が必要である
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	62.5%	25.0%		毎日の清掃を行い、清潔を保つようにしている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	37.5%	25.0%		PDCAサイクルの理解が必要である
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	37.5%	25.0%		意見を真摯に受け止め、改善に努める
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	37.5%	12.5%	平成30年3月公開	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12.5%	25.0%		第三者評価の実施を検討する
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75.0%	12.5%		研修に偏りのないよう、どのスタッフも研修に参加できる機会を設ける
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	75.0%	12.5%		主観的な分析とならないよう心掛けている
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	62.5%	12.5%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	62.5%	25.0%		成功体験、達成感がを得られる支援を目指して計画書の作成を行っている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	62.5%	12.5%		職員が共通した支援が行えるようカンファレンスの機会等を通じて、スタッフ同士のコミュニケーション、情報共有を行っていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	62.5%			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75.0%			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	75.0%		利用児の年齢差を考慮して活動の内容を工夫している	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	37.5%	50.0%		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50.0%	37.5%	終礼や連絡ノートを活用して情報共有を行っている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	87.5%			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	62.5%	25.0%		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75.0%			児発管だけでなく日々関わるスタッフも参加できるような体制をつくりたい
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	62.5%	12.5%		事業所の周知や理解が課題となっている
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	62.5%	12.5%		
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	75.0%		緊急時対応ができる体制を整えている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	#####			交流保育等にでかけ、地域との交流が図れるように努める
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75.0%	12.5%		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	62.5%		研修等の機会には参加できるよう努めている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50.0%	37.5%		交流保育等にでかけ、地域との交流が図れるように努める
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	37.5%	25.0%	法人内他事業所から参加している	今後も積極的に参加できるよう努める
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	75.0%			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	25.0%	50.0%		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	62.5%	25.0%		変更時の説明が不足しているので、面談の機会等を利用し説明を行っていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	62.5%	25.0%		今後も面談時に行えるよう、また支援内容も分かりやすく説明できるように努める
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	87.5%			送迎の受け渡し時や面談時に適切に行えるよう職員の質の向上に努める
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75.0%		保護者参加型の活動を取り入れている	今後も保護者同士が交流できる機会を提供していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	87.5%			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75.0%		月1回のおたよりを発行している	日々の活動がわかるような記事を作成

	38	個人情報の取扱いに十分注意している	87.5%			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	87.5%		介助者の思いを押し付けるのではなく、利用児の心情を受け止める支援を心がけている	今後も継続していく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	62.5%	25.0%		徐々に理解が得られてきているので今後も継続していきたい
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	50.0%	37.5%		マニュアルの策定・修正のほか、職員への周知徹底、訓練を充実させていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12.5%	50.0%		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	87.5%		母子手帳、おくすり手帳の提示などを求めている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	62.5%	25.0%		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	87.5%			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	62.5%	25.0%		年に1回以上の研修を継続していく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	50.0%	25.0%		徹底していく

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成31年3月30日

事業所名　多機能型事業所たちばな　　保護者等数（児童数）　　回収数　　割合　　%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	69.2%	31%			・日によって人数は異なるが、全員が利用する場合はもう少し広い方が良いと感じた ・小さい子供なら十分なスペース	ご利用児の状況に応じて仕切りを開け、空間を広くしている
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	100.0%				いいと思う	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100.0%				水筒やお弁当の場所などがきちんと決められていてわかりやすい、バリアフリーにもなっていいる	絵カード等を使用し、こどもが自分で収納するようにしている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100.0%				そのときそのときで仕切りを立てて区切っているし、いいと思う	場面に応じて対応を図る
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	92.3%			7.7%		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	92.3%			7.7%		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	92.3%			7.7%	その子の成長にあわせて色々してくれている	保護者の意向を踏まえて今後も支援していきたい
	8	活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	92.3%			7.7%		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	61.5%	7.7%		38.5%	わからない	近隣の幼稚園等の交流を増やしていきたい
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	92.3%	7.7%				
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	92.3%			7.7%		
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	53.8%	7.7%		38.5%		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100.0%				保護者が学ぶ機会もっともっと増やしてほしい	希望調査等を行い、学ぶ機会を作っていきたい

保護者への説明等	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	92.3%	7.7%			・とても丁寧に伝えてくれている ・相談事も真剣に聞いて一緒に考え、悩み、アドバイスを頂きました。気持ちが楽になりました	家族支援ができるよう職員の質の向上を目指す
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	84.6%	15.4%			毎回何かしらのお話がある	行事を通して職員・保護者間の交流を深めたい
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	92.3%			7.7%		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100.0%					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	92.3%			7.7%		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	92.3%			7.7%		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	46.2%	7.7%	7.7%	38.5%		緊急時のマニュアル等はあるが、保護者への周知は不十分であった
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	38.5%	7.7%		53.8%		避難訓練では場所等の確認を行うよう時期を設定している
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	100.0%					
	23	事業所の支援に満足しているか	100.0%				良く対応して頂き感謝しています。大満足です。	常に初心で支援に対応していきたい

事業者向け　放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	37.5%	50.0%	12.5%	
	2	職員の配置数は適切であるか	50.0%	50.0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	75.0%	12.5%	12.5%	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	25.0%	62.5%	12.5%	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	12.5%	50.0%	25.0%	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	12.5%	25.0%	50.0%	平成30年3月公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	12.5%	37.5%	37.5%	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	62.5%	37.5%		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	75.0%	12.5%	12.5%	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	75.0%	25.0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	75.0%	25.0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	87.5%	12.5%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	62.5%	37.5%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	87.5%	12.5%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	50.0%	25.0%	25.0%	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	25.0%	50.0%	25.0%	

事業者向け　放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100.0%			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	75.0%	25.0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	50.0%	25.0%	25.0%	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	75.0%	25.0%		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	87.5%			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	75.0%	12.5%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	62.5%	37.5%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	37.5%	62.5%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	50.0%	37.5%	12.5%	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	25.0%	37.5%	37.5%	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	25.0%	50.0%	12.5%	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100.0%			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っているか	25.0%	50.0%	25.0%	

事業者向け　放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	50.0%	37.5%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	87.5%			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	50.0%	37.5%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	75.0%	12.5%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	87.5%			
	35	個人情報に十分注意しているか	87.5%			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	87.5%			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	50.0%		25.0%	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	37.5%	50.0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	37.5%	37.5%	12.5%	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	62.5%	12.5%	12.5%	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	37.5%	37.5%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	50.0%	37.5%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	50.0%	37.5%		

保護者等向け　放課後等デイサービス評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	83.3%	16.7%		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	83.3%	16.7%		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	83.3%	16.7%		
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100.0%			
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100.0%			
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		83.3%	16.7%	
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	83.3%	16.7%		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100.0%			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	83.3%	16.7%		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	50.0%	50.0%		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	50.0%	50.0%		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100.0%			
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	83.3%	16.7%		
	14	個人情報に十分注意しているか	100.0%			
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	66.7%	33.3%		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	33.3%	50.0%	16.7%	
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	83.3%	16.7%		
	18	事業所の支援に満足しているか	100.0%			